

# 本郷高校新聞

本郷高等学校新聞委員会  
-HONGO HIGH SCHOOL NEWSPAPER COMMITTEE-

発行所  
〒170-0003  
東京都豊島区駒込4-11-1  
電話 03-3917-1456

-第59号-  
(PC版)  
編集長 関 悠希

## 今年度一年間を振り返る

### 「学年末行事アンケート」の集計結果を通しで

もう「今年度」は終了だ。それぞれ今年を振り返って思うことは有るだろう。学校生活という面に限って言うならば、学校行事というのはその中でも特別なものになっているだろう。そんな今年の学校行事について、アンケートを取った。

まず、体育祭について。運営は体育祭実行委員会や生徒会によって行われ、途中雨など様々なアクシデントがあったが、それも含めていい思い出になったのではないかと、結果は予想に反して「とても充実していた」という票が伸び悩んだ。やはり「運動行事」というものに苦手意識を持つ生徒も多いようだ。

この問題については、来年度に向けて体育祭実行委員会が行う企画に期待したい。次に、応援委員会、体育祭というのには彼らにとっても最大の見せ場といつてもいいものだったが、「特に何も感じなかった」や「記憶にない」という生徒が大半を占める厳しい結果となった。やはり普段の活動が

## 「身近な存在へ」

### 増本洋行主将へインタビュー

運動部の大会において、応援委員会の声援に励まされた。そういった人は数多くいるだろう。

今回はそんな「縁の下の力持ち」とも言える応援委員会の主将・増本洋行さんにインタビューを行った。Q1 去年の運営に関わって反省点がありましたか？ A1 発足一年目で探りながらの活動だったのを「応援」として浸透させようと改良を加えながら活動していった。今後はますます生徒を巻き込んでより身近な存在を目指したいです。

Q2 次年度の運営に関して目標や具体的な方針はありますか？ A2 例年通り、体育祭・本郷祭・受験生壮行会を軸に活動して行き、部活動の大会応援、更には去年開設したウェブサイトを様々な場面で学校を盛り上げていきたい。今後はますます生徒を巻き込んでより身近な存在を目指したいです。

Q3 生徒に向けて伝えたいことはありますか？ A3 僕たちは全ての本郷生の応援をしています。押忍。応援委員会は、今年度の体育祭では天候が不安定だったのにもかかわらず、その場の雰囲気やいい方向へと一変させるような力強い演技を見せてくれた。稽古や準備など大変なイメージもあるが、パソコンを通じたウェブサイトの運営や、文化祭の本郷市での模擬店を出すなど、意外なところにも活動を広げている。

他校との交流も盛んだ。去年の本郷祭と城北文化祭では、城北学園応援同好会の合同による「本郷戦」を行っている。「応援」することにより、本郷生の背中を押してくれたい。応援委員会、何より、その活動は生徒との一体感を生み出していく。その相互関係はいい結果を残すだけでなく、お互いを高めあうことにもつながっていると見える。皆さんも今一度、応援委員会の今後の活動のため、また学校生活を充実させるため、いろいろな場面で協力して見るのも一興ではないか。(43園)

## アンケート集計結果

Q2① 体育祭を振り返って、どうでしたか？



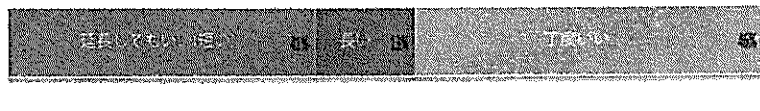
Q2② 体育祭での応援団の活動を見て、どう思いましたか？



Q3① 本郷祭を振り返って、どうでしたか？



Q3② 本郷祭の時間は短いと思いませんか？



Q4 マラソン大会を振り返って、どうでしたか？



Q5 生徒会選挙はマニフェスト配布などを行うなどの変化がありました。演説会のあり方など振り返ってどうでしたか？



これは有志化した本郷祭実行委員会のおかげといつていいだろう。前号で来年度に向けた意気込みを語った。

四つ目はマラソン大会。予想通り低い評価となった。自分から積極的に参加する行事でもないため受ける身勝手な態度になってしまっている。残念だが、少し見方を変えたりすることで楽しむことは出来ないだろうか。

最後に生徒会選挙、行事といえるかは微妙なところだが、様々な場で活動する生徒会を唯一生徒全員が評価できる場ともいえるので、ある意味生徒会の支持率を図るといえる。今年度は新聞委員会が生徒会から委託を受けてマニフェスト作成を行い、立候補者の意思が伝わりやすいように工夫されたがその結果はどうだったか。

結果は少々残念なものとなった。インパクトの強い

## お詫び

実施したアンケートにおいてQ1の回答に不備があり集計できなかったこと、また、Q3の②の本郷祭の「祭」が「彩」になっていたことを、深くお詫び申し上げます。(新聞委員会)

## 事故

3月8日未明にマレーシア航空370便のボーイング777型機が行方不明になった。その行方と原因についての捜査は難航している。▼航空機事故とその後の安全対策の進歩は、人は日々進化し続けるものだと言われている。▼事故が航空機自体の欠陥によるものならその機体が、マニユアルの欠陥ならマニユアルが、人的ミスなら訓練内容が直ちに修正されるし、航空会社そのものに問題があるなら厳しい処分がくだされる。▼日本で起きた最悪の航空機事故は一九八五年に起きた、日本航空のボーイング747型機、いわゆるジャコニボジェットが御巣鷹の尾根に墜落し乗員乗客520名が犠牲となった日本航空123便墜落事故だ。▼ボーイング社の修理ミスに起因し飛行中に垂直尾翼が脱落、さらに油圧喪失により操縦桿が効かなくなつた。機長は左右のエンジン出力差を調節することで空港にたどり着こうとしたが、それはかなわなかった。▼レコorderに残る機長の「これはだめかもわからんね」という台詞には操縦不能な状況の中の想像を超える絶望感がある。▼この後、日本の航空会社が運航する定期旅客機において一度も死亡事故は起こっていない。▼そろそろ航空機の利用が、本郷でも認められていいのではないだろうか。(43坂上)